

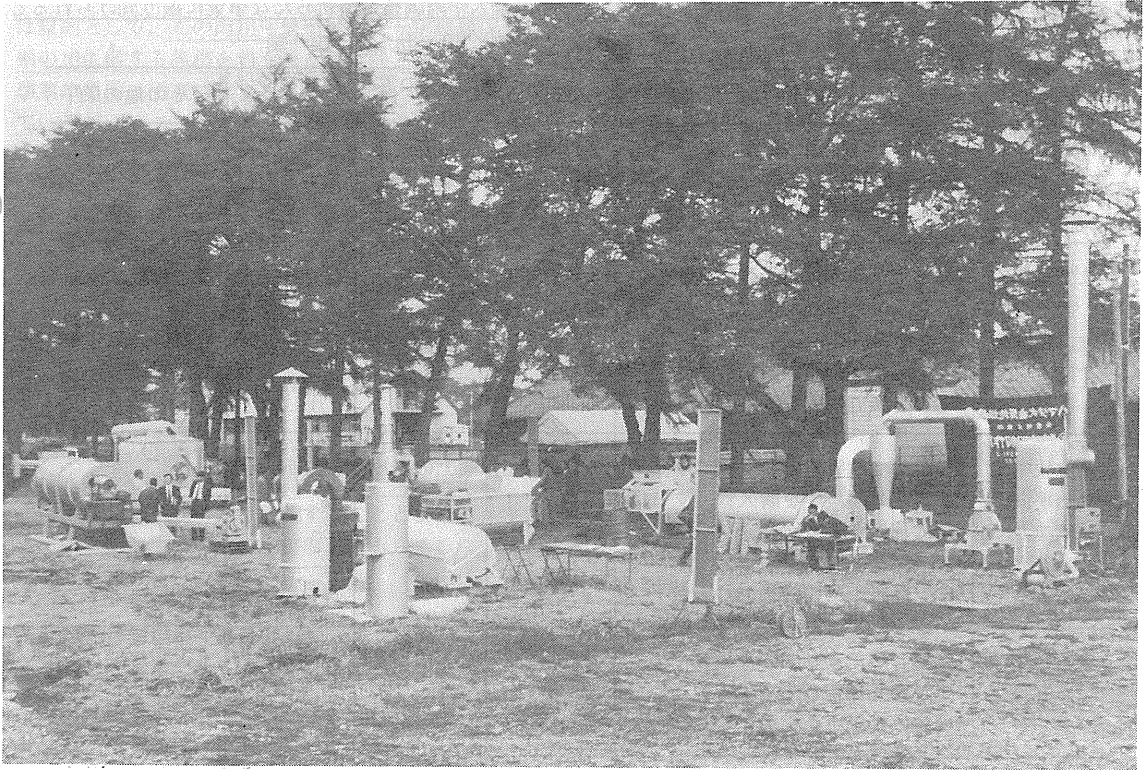
畜産みやぎ

題字
宮城県知事 山本 壮一郎

発行所
仙台市上杉1丁目2番16号
社団法人 宮城県畜産会
電話 (61-2111)

編集発行人 大石 武一
定価 1部20円

印刷所 K K東北プリント



畜産経営環境整備機械展示実演会
(宮城県畜産試験場にて)

もくじ

- 肉用牛の生産に奨励金がです 2
- 配合飼料の購入には低利資金の利用をどうぞ 3
- 公共放牧場振興対策について 4
- 肉用牛里山牧場の開設をみんなで考えましょう 5
- 家畜畜産物衛生指導協会の強化について 8
- 全国肉牛枝肉共進会成績の概観 9
- 町(部落)ぐるみ畜産公害をなくすために 9
- 和牛子牛の価格が高騰 10
- 畜産経営環境整備施設機械展示会開く 12
- 畜産相談室のお知らせ 12

肉用牛の生産に奨励金がでます

— 肉用牛緊急振興対策事業のあらまし —

宮城県肉用牛価格安定基金協会

食生活の多様化による食肉の需要が増大するなかで、特に牛肉に対する需要が近年著しく、この趨勢に対応して肥育経営の進展と、と殺が増大し国内に於ける肉用牛の生産構造が年々不健全となり国際的な牛肉需給事情の

ひっ迫傾向とも関連して肉用牛生産振興の重点施策が推進されているところでありますがこれら施策の一環として繁殖用雌牛の流失防止と、繁殖供用の促進を図るために、輸入牛肉調整金が新たな事業に振り向けられるこ

肉用牛緊急生産振興対策助成事業

事業名	補助事業の内容	補助率	事業の実施主体	補助を受ける対象者	その他の条件
1.繁殖牛多頭化促進事業	農協等が、肉用牛繁殖めす牛を導入して貸し付ける場合に、これに要する輸送費に補助する。	2分の1以内	価格安定事業を実施している農協	左に同じ農協	県外からの輸送に限る
2.繁殖牛飼養管理向上促進事業	農業生産法人等が、次の施設を設直する場合に補助する。 ① 裏山等の牧棚 ② 畜舎、飼料貯蔵庫 ③ 小型飼料刈取機	3分の1以内	同上の農協	価格安定事業を実施している農業者で組織する生産法人組織体	裏山牧棚は5ha以上 畜舎、飼料庫、刈取機は対象牛10頭以上
3.放牧牛受胎率向上事業	農協等は放牧地での受胎率を向上するため種雄牛を購入管理する場合に補助する ① 種雄牛の購入費 ② 種雄牛の管理舎の設置費	3分の1以内	同上の農協	左に同じ農協	
4.繁殖牛保留継続生産奨励事業	農業者が飼養している繁殖用めす牛を継続保留して子牛を生産した場合に奨励金を交付する	子牛1頭の生産に対し1万円以内(定額補助)	同上の農協	価格安定事業を実施している農業者	3カ年継続して子牛生産のため飼養すること
5.繁殖牛損耗防止事業	農協等が繁殖用めす牛の事故防止のため次の事業を実施する場合補助する ① 畜舎、運動場の定期消毒 ② 削蹄 ③ 放牧場での小型ピロプラズマ病の予防	3分の1以内	同上の農協	左に同じ農協	

畜産施設設計コンサルタント

〔KK〕山本設計事務所

仙台市柏木3丁目2の28
TEL (0222) 33-6028

今日の活力！ 明日の健康！

全酪牛乳



全国酪農業協同組合連合会(全酪連)

とになり、国と畜産振興事業団に於て具体的内容が検討されておりましたが、この事業の方針が決定し本年度から実施されることになりました。

この事業は昭和48年度から実施するもので、基本的な考え方は最近の牛肉価格の高騰に伴なって繁殖可能な肉用雌牛がと殺され資源の喰いつぶし現象を防止するため、肉用繁殖雌牛の保留を奨励して子牛生産を図ろうとするものである。

従ってこの事業の対象となった肉用牛繁殖雌牛の飼養者は原則として、この肉用牛繁殖雌牛を一定期間保留し繁殖の用に供する義務を負うことが条件となります。

事業の概要は別表に示すとうりで5つの事業が考えられているが、メニュー方式で事業主体が地域の実情に応じて選択するものとされている。

なお事業主体は肉用牛価格安定基金協会と肉用牛価格安定事業に係る肉用牛生産者補給金交付契約を結んでいる農協とし事業の対象者は肉用牛価格安定事業による肉用牛生産者補給金交付利用契約を結んでいる肉用牛飼養者としている。又昭和48年度のこの事業に要する予算額は約8億5千万円で、この助成金は畜産振興事業団から宮城県肉用牛価格安定基金協会を通じて事業主体へ交付される。

以上5項目の事業概要を紹介致しましたが48年度事業として本県では農家から最も要望の強い第4項目の繁殖牛保留継続生産奨励事業を実施することとし、現在事業主体に於て調査中ではありますが事業のあらましについて次の通りお知らせ致します。

◎ 繁殖牛保留継続生産奨励事業

農業者が飼養している繁殖用雌牛を3ヶ年継続して子牛を生産した場合に奨励金を交付する。

1 事業主体

農協又は農協連(肉用牛価格安定事業を直接又は間接に実施しているものに限る)

2 補助対象及び補助額

(1) 奨励補助金交付対象者

ア、肉用牛価格安定事業に係る肉用牛生産者補給金交付利用契約を締結していること。

イ、その飼養する肉用繁殖雌牛を事業主体に登録し

ていること。

ハ、登録した対象牛を3ヶ年間保留させることとし肉用牛繁殖牛保留継続生産契約を締結すること。

(2) 奨励補助金交付対象牛

対象牛が子牛を生産し、かつ当該子牛を5ヶ月間以上育成した場合に奨励補助金を交付するものとする。

イ、昭和48年4月1日より生産された牛で生后5ヶ月令を確認されたもの。

ロ、昭和49年3月31日現在で生后5ヶ月令を確認出来るもの。

(3) 奨励補助金の額

対象牛が生産した子牛で1頭当たり1万円以内の定額補助。

以上のような奨励措置がとられることとなりますので詳細は最寄の農協或は家畜保健衛生所へお問合せ下さい。

配合飼料の購入には 低利資金の利用をどうぞ

— 畜産経営特別資金制度 —

宮城県畜産課

配合飼料の価格は国際的な飼料穀物の需給がひっ迫みに推移したため、昨年暮れから3月までの値上げ(トン当たり8,000円)に引き続き去る9月から更にトン当たり10,000円程度の値上げがみられ、これに対応するため再び畜産経営特別資金融通助成事業が実施されることになりました。

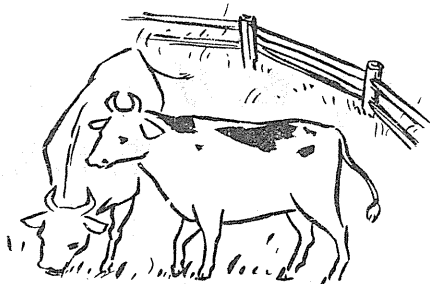
今回は9月から49年3月までの飼料費の一部として貸付されることとなりますが、畜種別貸付基準額は別表に示すとおり前回に比較して約2倍程度になっており、貸付限度額も3万円から600万円まで融資されることになりました。

<融資制度のあらまし>

1 貸付けを受けることのできる者

家畜、家さんを飼養する個人および農業者等が過半数をしめる組織体等とする。

2 融資機関



畜産の薬品・器機

何でも揃ふ専門店

仙台市上杉三丁目3-8
東北獣医薬品株式会社

TEL (25) 7338

支店 登米郡迫町佐沼下田中
TEL 迫(2)2278

支店 山形市小白川町4丁目
TEL 山形(3)9909

農業協同組合、信連、農林中央金庫、七十七銀行、徳陽相互銀行、振興相互銀行

3 貸付条件

貸付額は別表の「畜種別貸付基準額」に飼養する頭羽数を乗じて得た額の範囲内であって、3万円以上600万円以下とする。

〔別表〕 畜種別貸付基準額

畜種別	単位	貸付基準額
採卵鶏	100羽	16,900円
ブロイラー	100羽	15,100
豚	1頭	1,800
乳用牛	1 "	5,200
肉用牛	1 "	4,600

〔例〕 鶏 3,000羽飼養している場合

30 × 16,900円 = 507,000円

4 利率および償還期限

利率は年4分以内で、償還期限は2年以内とし、貸付された日から1年半までの間に元金の2分の1に相当する額以上を償還するものとする。

5 借入申込みおよび貸付け

借入申込みは昭和49年3月31日までとし、貸付けは昭和49年4月30日までとする。

なお、借入申込時に市町村長の証明する家畜飼養頭羽数証明願が必要となります。

「詳細については、もよりの家畜保健衛生所にお問い合わせ願います」

仙台家畜保健衛生所	2～3111	古川	〃	3～2255
石巻	〃	57～0921	築館	〃 2～2111
古川	〃	5～1411	迫	〃 2～2152

(草地飼料係)

公共放牧場 振興対策について

宮城県畜産課

本県内における公共放牧場は、昭和36年度以降40数ヶ所が造成設置され、それぞれ地域の畜産振興に寄与しているが各放牧場とも共通する幾多の問題をかゝる経営は必ずしも容易でない実情にある。即ち要約すると次のとおりである。

- (1) 乳用牛、肉用牛飼養頭数の伸び悩み等により育成牛等放牧計画頭数の確保が容易でないこと
- (2) 事業の公共的性格と上記(1)の事由から低料金による経営を余儀なくされていること
- (3) 資本蓄積が困難で運営改善に必要な関連施設の整備充実が至難であること
- (4) 草地の肥培管理利用と放牧管理のため雇用する季節労働者が不足しており、且これらの賃金が逐年上昇していること、また購入飼料代、肥料代が高騰し経営を一層圧迫していること
- (5) 放牧技術が未熟であること

等があげられる。

したがって、各放牧場の実態調査結果にもとづく改善具体策を中心に次の万途により関係市町村、農業団体等の相互協力のもとに効率的な措置を講じ、公共放牧場の振興と健全化を促進することに御努力頂きたい。

※対策の方向

(1) 入牧頭数の確保

各放牧場の計画頭数を確保するため、酪農近代化計画肉用牛振興計画等諸計画の積極的な推進をはかり企業畜産経営農家(多頭化)を育成強化するとともに、広域的な市町村を対象として啓蒙による予託牛頭数の確保を期する。

(2) 放牧場の高度活用

放牧場の一般的経営方式としての夏期放牧から可能な限り一貫生産周年方式、或いは乳用おすの肥育事業等、機能実現に努め、放牧場の高度活用と併せ買取り育成による収益増加に資する。

(3) 技術向上対策

上記(2)の方策により、従事者の身分保障を助長するとともに、国の研修、講習会を通じこれが技術の向上をはかる。

酪農経営に画期的な新鋭機登場



株式会社 五十嵐商会

仙台市中央三丁目5番14号

総合養豚事業にとりくむ
サイボクグループ



(株)サイボク

東北牧場

取締役社長 笹崎龍雄

取締役場長 大角宏一

宮城県栗原郡高清水町影の沢 TEL(高清水)172

(4) 関連事業の導入

放牧場経営の収益増をはかる一環として、ジギスカン等の開設により経営収支の不均衡(赤字収支)を軽減している成功事例もみられるので、環境条件を考慮して休養村的施設(レストハウス、貸馬、その他有料の遊園施設)等を計画導入することも一手段ではなからうか。

(5) 補助事業の活用

全国競馬協会による現行補助事業として、集団放牧に対する管理費(乳用めす牛1日40円、肉用牛25円、繁殖センター牛80円)の外草地並びに牧柵等放牧の更新及び草地管理用機械、乾草収納庫等が対象として認められているので、これらの制度を可及的活用することが望まれる。

(6) 施設整備の充実強化

前記(5)により補助対象として認められ難い牧道、飲雑用水、電気導入、畜舎、飼料貯蔵庫、農具庫、薬浴施

設、電話架設、管理舎、牛衝器、ふん尿処理施設については、経費の一部に対し別途助成措置を講ずる必要があるので、昭和49年度予算要求実現に努めている。

なおこれらの補完整備により牧草生産性向上を促し、放牧期間延長による収益の自然増と環境整備による公害防止に少なからぬ効果をもたらすものと思われ。

またこれらの予算的裏付けもさることながら、管理経営者の改善に対する積極的な姿勢と直接従事者の新知識技能を活かした意欲的な行動こそ経営の方向を決定づける最大のキーポイントとなっているので運営管理に対するより強力な推進体制が望まれる。

以上公共放牧場振興対策の概要を述べたが、さらに低収益のため経営の存続が困難な放牧場については、高度活用の方途として立地条件等を配慮した再編整備、放牧経営以外の他の畜産部門の導入、或いは企業の畜産経営の張り付け等(勿論制度上の問題はあろうが)検討すべきであろう。(草地飼料係)

肉用牛里山牧場の開設をみんなで考えましょう

宮城県畜産課

(I) 健全な肉用牛振興対策の必要性

食生活の多様化に伴って、牛肉の需要が近年増大しておりますが、国内における肉用牛の生産が伸び悩み、需給構造が不均こうをきたし、肉用牛価格等の高騰を招いております。昭和47年においては、牛肉の需要は35万トンに対し国内自給は29万トン、不足6万トンは輸入で充足されたが、本年は輸入枠16万トンと輸入に依存する現情にあります。

農協の肥育事業を発展させるため素牛は県内で自賄できるよう繁殖に力を入れましょう

このような情勢に対応するため、本県においても肉用牛の増殖のため生産、流通、価格対策が積極的に展開されているが、肉用牛事情は年々ひっ迫の度を加え、市町村、農協段階においても能力の高い繁殖めす牛及び肥育素牛の確保が行き詰る趨勢にある反面、農協の集団肥育が活発に推進されており、肉用牛のと殺出荷は年々3万3千頭に及び肥育技術も向上して、仙台牛の銘柄も関東

関西市場でようやく定着しつつあります。強い牛肉の需要を反映して、本県としても老廃牛、去勢牛、乳雄等の肥育による付価値を高め、肉用牛農家の所得向上に役立つ肥育事業が今后益々伸長するものと思われませんが、全国的な素牛資源の不足から、肉用牛生産構造の再編機運が高まり、各県共に優良資源の県外移出を極力抑制する方向にありますので、従来先進県に市町村、農協等が容易に依存購買が可能だった素牛も、今後は益々不可能になるろう。

従って、肥育素牛の計画的調達によって将来共に、農協肉用牛肥育事業を発展させるためからも、県内市町村における肉用牛振興が緊要であり、特に各市町村で樹立の肉用牛振興計画に基づく、里山や未利用野草源の利用等による肉用牛農家の繁殖めす牛飼養グループの育成によって、繁殖と肥育のバランスがとれる新しい施策の実施が必要とされています。

(II) 本県の健全な肉用牛振興のための重点事業

純生卵

「生産から販売まで」

(株)フラワー食品仙台営業所

TEL(0222)(92)6371

中新田GPセンター

TEL(022296)(3)3714



いつもフレッシュ!!

明治牛乳

明治乳業

肉用牛生産構造の再編による健全な生産体系を早期に確立するため、国の高能率生産団地育成のほか、新たに、肉用牛里山等利用生産組織整備による繁殖と肥育のバランスがとれた、市町村毎の肉用牛生産振興と、これ

ら肉用牛振興市町村に優良肉用牛の供給を行なう。肉用牛大規模牧場を整備して、昭和52年を目標に次に示す、繁殖めす牛の増殖を期待し、肥育素牛の生産確保に努めます。

肉用牛生産振興指定地域

肉用牛生産振興指定地域及び指定地域外市町村

肉用牛供給施設		高能率生産団地		生産団地	
肉用牛繁殖センター	肉用牛大規模牧場	肉用牛一般生産団地	肉用牛大型生産団地	肉用牛生産組織整備	一般地域
農協等 1牧場80頭 用地50ha以上 4既存放場、 再編整備	公社、連合会等 1牧場300頭 用地300ha 300頭換算 5牧場整備	繁殖牛概ね1千頭以上を3~4年後で飼養10頭以上規模概ね40戸以上、9頭以下規模100戸以上肥育センター150頭規模以上を備えた地域1貫生産1市町村計画	繁殖牛概ね2千頭以上を3~4年後で飼養10頭以上規模概ね120戸以上9頭以上規模120戸以上、肥育センター600頭規模及び集出荷施設の設置による地域1貫生産3市町村計画	繁殖牛概ね500頭以上を3~4年後で飼養5頭規模以上の繁殖又は肥育を加味した1貫経営概ね60戸以上、3頭規模以上繁殖経営70戸以上による地域1貫生産22市町村計画	繁殖牛300頭以上で肥育にウエートの高い地域、繁殖牛300頭以下の肥育地域

繁殖用成把飼養頭数	360頭	1,500頭	7,000頭	6,600頭	13,200頭	6,351頭	県計 34,044頭
飼養割合	1.0	4.0	20.5	19.0	38.5	17.0	100%
	主体事業		主体事業		主体事業	対応事業	

肉用牛大規模牧場整備事業
 関連事業
 草資源利用施設整備事業
 団体営草地開発事業
 肉用牛経営規模拡大事業
 繁殖障害牛種付促進事業

肉用牛生産団地育成事業
 関連事業
 草資源利用施設整備事業
 団体営草地開発事業
 肉用牛生産性向上対策事業
 肉用牛経営規模拡大事業

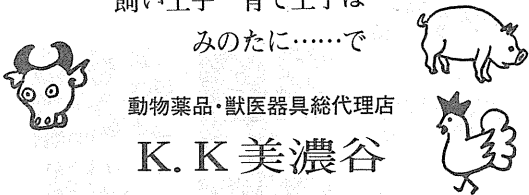
肉用牛里山等利用生産組織整備事業
 関連事業
 草資源利用施設整備事業
 団体営草地開発事業
 肉用牛経営規模拡大事業
 繁殖障害牛種付促進事業
 牛の小団地草地造成事業

繁殖障害牛種付促進事業

繁殖牛保留継続生産奨励事業

乳用雄子利用促進事業

飼い上手 育て上手は……
 みのたに……で



動物薬品・獣医器具総代理店
K. K 美濃谷

本店 山形市蔵王成沢
 TEL 山形 (0236) (88) 3121
 仙台営業所 仙台市山田字羽黒堂 5-216
 TEL 仙台 (0222) (45) 4306
 鶴岡店 鶴岡市本町一丁目 8-3
 TEL 鶴岡 (0235) (22) 1428

こくておいしい大型びん……

森永
ハイクラウン 牛乳

宮酪乳業株式会社
 仙台市一番町4番31号 TEL(代) 23-9101

(III) 肉用牛里山牧場の進め方

事業の実施 = 肉用牛生産振興地域内あって、土地賦存状況、飼養の現況等を勘案し、飼養者の類型確立と育成上、国、県等現行施策に該当しない施策等に市町村等が援助しなければ確立困難な事業の実施

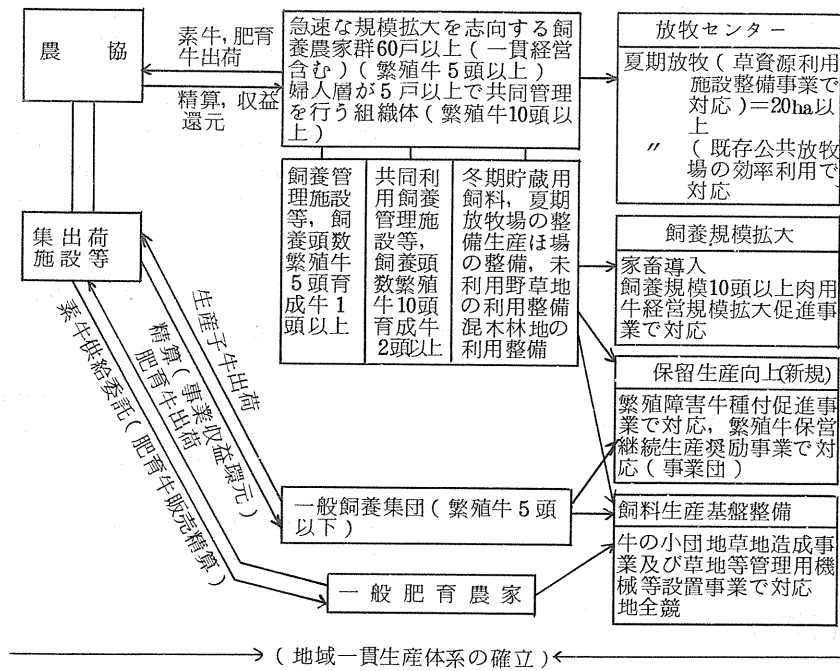
事業推進のしくみ = 全体計画の策定→整備計画→推進指導→施設整備→関連事業の実施

- 推進方策
計画策定
- 1.全体事業計画の作成
 - 2.中核的飼養者の経営設計指導
 - 3.グループによる中核的飼養体系となる設計指導
 - 4.「2,3」を育成する不足施設整備計画
- 推進指導
- 1.推進協議会による推進と計画
 - 2.地域指導班による指導
 - 3.施設等整備
 - 4.裏山等放牧場の整備
 - 5.実施年次2カ年

生産体系の中核的機能

生産部 門

関連事業の実施



(IV) 肉用牛里山牧場の内容

1) ねらい

肉用牛生産振興計画樹立市町村を特定し、市町村および生産者団体等が一体となり、地域肉用牛生産構造の再編の緊要性を踏まえ、自然的経営的立地条件に調和する中核的生産の担い手となる飼養者を計画的かつ急速に規模拡大を推進し、これら中核的生産の担い手

となる飼養者の経営類型の育成を阻害する飼養管理、飼料生産圃場施設、集出荷施設等の整備を計画的に推進することにより、飼養者を基点に生産者団体を中核とする、地域一貫生産体系を確立し、今後における本県肉用牛生産の健全な団地形成に資するとともに、生産性の高い肉用牛経営の育成と定着化を図ろうとするものです。

牧場用柵には
強くて美しくスマートな
東芝製鋼牧柵を!

製造元 東伸製鋼(株)仙台営業所
仙台市一番町二丁目7-5 TEL077053
販売元 塚本商事機械(株)東北出張所
仙台市大町三丁目165 TEL014581
代理店 本山振興株式会社
仙台市昭和町6番10号 TEL046221

畜産公害を追放する

家畜糞尿処理工事

さく井工事 設計・施工
ポンプ工事
水処理工事

株式会社 北辰技術

仙台市鉄砲町18番地
電話 (0222) (93)2461

2) 事業主体

市町村、農協連合会、農協、森林組合等

3) 要件

団地形成事業の計画を樹立し、かつ中核的生産の担い手となる飼養者の経営類型別育成上阻害される事業等の整備計画を作成し、市町村、農協等(事業主体で投資を行う場合は、この限りでない)が計画的整備助成を行なう施設等に限りませぬ。

4) 施設等整備事業内容

1. 共同利用家畜管理施設 1 地域事業費 6,462 千円
既存草地概ね 4 ヘクタール、未利用林地 3 ヘクタールの混牧利用が可能で 2 戸(婦人グループの場合 5 戸)が 10 頭以上の生産経営を行う施設

畜舎、飼料庫、給水場、牧柵、サイロ、堆肥盤、尿草刈機、尿撒布機等の必要施設

2. 家畜管理施設 1 地域事業費 21,900 千円

中核的生産の担い手となる飼養者が、規模拡大により経営体系を確立するために市町村等が、助成を行なわなければ育成困難な施設

畜舎、給水場、牧柵、サイロ、堆肥盤、草刈機、その他必要と認めたもの

3. 冬期飼料生産圃場施設 1 地域事業費 21,330 千円

中核的農家が飼料生産を行うために、他の補助事業で実施できず、自力で整備を行なう必要のある基盤および取付道路ならびに既存草地基盤の管理、生産調整用機械の整備

詳細は家畜保健所にどうぞ (肉畜係)

近年、畜産の大型化が進んでおりますが、経営者自体が自らの家畜を、常に健康な状態におくことによってはじめてその能力が発揮されるもので、病気や不健康の家畜からは、経済効果は期待することはできません。

家畜が急激に増加し、全国のみならず、国際規模で激しく流通するようになった今日、自分の家畜を守る自衛体制の確立が益々緊要となっております。このような情勢に対処して、防疫能率を高めるため、家畜飼養者と、国・県がお互に機能を分担し、家畜衛生全般の防疫能力を高めるため、昭和46年家畜伝染病予防法の一部改正(第62条の2項)により、家畜飼養者による防疫措置の必要性と、国および地方公共団体による指導助言の義務が制度化されました。これに基づき、本県の自衛防疫も市町村、農協団体等のご協力とご理解により、個々の自衛防疫組織が横に手をつなぎ、今後県の行う防疫と調和を保ちながら、お互に補完し合うため、自衛防疫組織が発展的解消され、昭和47年7月、「宮城県家畜畜産物衛生指導協会」が設立されましたことは、皆さんご承知のところでありませぬ。

またこのたび国の指導もあり、農家または団体でできる日常の予防措置は指導協会が分担し、県は農家側の技術的、経済的にできない部門、すなわち診断や検査、調査、情報収集伝達、海外伝染病の防疫などの面を担当し、両者を合せて県内の家畜衛生を守り、新しい時代に対処できる体制を確立するため、昭和48年度中に畜産農家をはじめ、市町村、団体等のご期待に副うよう「社団法人・出資規模 3,000 万円」の協会として、発足するため、諸般の準備を急いでおりますので、関係皆さんの一層のご協力を、重ねてお願いいたします。

48年度指導協会補助事業の概要 (単位:円)

事業名	事業費	補助金	摘要
1. 豚コレラ発生予防事業	65,005,000	22,250,000	50万ト技術料補助、ワクチン購入補助(県単)
2. ニューカッスル病発生予防事業	11,999,000	4,126,000	389万
3. マレック病発生予防事業	2,800,000	1,710,000	568万羽ワクチン補助 15万羽ワクチン補助

家畜畜産物衛生指導協会の強化について

宮城県畜産課

昭和46年8月、家畜保健衛生所が再編整備されて2年有余を経過し、施設人員の充実と、技術の専門分化がすすめられ、地域の畜産サービスセンターとしての役割りを果たしつつありますが、今日の畜産の多頭化も、集団化も、伝染病対策の確立によって、はじめてその健全な発展が約束されることとなります。

フランス生れのソフトヨーグルト!
雪印ヨーグル

雪印純牛乳

雪印乳業株式会社
東北事業部 仙台支店
仙台工場



安くて、うまい大衆肉
豪華に食卓を飾る
にない手として

※肉牛生産から
加工販売まで※



大進畜産株式会社
宮城県栗原郡築館町字留場桜1の1

4.異常乳発生防止指導事業	576,000	1,250,000	チン補助 抗生物質細菌 残留農薬検査 巡回指導費 獣医手当 共同育すう場 殺虫、消毒 環境衛生指導 専用乳質改善 指導用
5.衛生状況調査指導事業	1,765,100		
6.法定外特殊伝染病対策事業	2,050,000	1,100,000	
7.指導用機器整備事業	129,900	116,000	
8.広報活動事業	210,000	112,000	
9.研修事業計	200,000 84,735,000	0 30,664,000	

(衛生係)

表2 枝肉重量

(単位: Kg)

枝肉区分	280	300	320	340	360	380	400	420	440	460	480	500	520	計
	299	319	339	359	379	399	419	439	459	479	499	519	以上	
乳用♂				1	1	9	6	8	8	6	3	2	1	45 (2)
和牛♂			1	4	10	12	17	8	11	6		1		70 (14)
和牛♀	1	2	7	8	12	8	3	2	3					46

表3 枝肉1Kg当り価格

(単位: 円)

価格区分	1000	1200	1400	1600	1800	2000	2200	2400	2600	2800	3000	3500	4000	4500	計
	1200	1400	1600	1800	2000	2200	2400	2600	2800	3000	3500	4000	4500	以上	
乳用♂	2	22	16	2	1	1			1						45 (2)
和牛♂	2	3	21	17	12	3	2	6		3			1		70 (14)
和牛♀		1	5	13	7	4	3	2	1	4		4	2		46

全国肉牛枝肉

共進会成績の概観

宮城県畜産会

東京食肉市場株式会社の総合ビル落成記念事業として全国肉牛枝肉共進会が同会社、全国肉用牛協会共催をもって昭和48年10月24~26日の3日間、37都道府県が参加し、東京都中央卸売市場食肉市場において開催された。

出品点数は和牛メス49頭、和牛去勢70頭、乳用去勢45頭計164頭で、本県より和牛去勢14頭、乳用去勢2頭出品し、遜色のない成績を収めた。

全般を概観してみると表1・2・3に示すように、枝肉単価では和牛メスがや、優位であるが、枝肉重量では和牛去勢牛が平均45Kg上廻っており、このため販売価格では両者間に殆んど差がみられない(図1)。乳用去勢牛は枝肉重量のない限り、有利性を発揮できないことがよく理解できる。なお肥育素牛は、和牛去勢で43%、同メスで49%が兵庫県産であることは、肉牛資源および改良面などからみて一考を要する点であると思われる。

表1 出品牛の成績(1頭平均)と枝肉格付割合

区分	出品頭数	と殺前生体重 Kg	枝肉重量 Kg	枝肉歩留 %	枝肉価格 円	枝肉1Kg単価 円	格付割合		
							特選	極上	上
乳用♂	45 (2)	707 (666)	437 (426)	61.7 (63.9)	618,377 (635,022)	1,415 (1,490)	-	6.6 (-)	13.3 (100)
和牛♂	70 (14)	646 (642)	413 (412)	63.8 (64.1)	854,534 (806,595)	2,071 (1,966)	10.0 (7.1)	30.0 (35.7)	54.2 (42.8)
和牛♀	46	572	368	64.2	918,436	2,497	15.2	30.4	50.0

注 ()内は宮城県出品牛、表2, 3においても同じ

町(部落)ぐるみ畜産

公害をなくすために

宮城県畜産課

畜産の進展とともに家畜飼養規模は年々増加しており、その反面労力不足等もありますが、肥料の利用を回避する傾向にあるため、これらふん尿に起因する環境汚染が、問題になっております。

県は広域きゆう肥利用促進事業、悪臭防止対策、汚水処理整備事業等をつづけており、成果をあげて参りましたが、昭和49年より農林省においては新しく「畜産経営環境保全集落群育成事業」を計画していますので、この事業の内容をお知らせします。

[1] 畜産経営環境保全集落群育成事業

環境保全集落群育成事業とは、地域の実情に即した適切で安定的な、家畜ふん尿処理を推進し、これを効率的に実施するための生産の組織化や、生産機械の導入と適正な畜舎配置など総合的計画的に進め、地域社会と融和した畜産集落の育成をはかろうとしているものです。

従来実施されていた広域きゆう肥利用促進事業や、悪臭防止対策等の事業は、これに切替えられるとともに、より巾の広い大きい規模に移行する方向に進んでおります。

事業の内容は「家畜ふん尿の処理、利用体制の整備」「家畜飼養施設」「営農用機械施設」等ふん尿処理施設を中心とした、三つの施設設置に対して助成しようとしているものです。

ふん尿処理の方式は、地域の特長に応じて計画しても良いことになっております。

例えば、施設整備のタイプとして立地条件により、更



に草地・畑地・水田の三つのタイプを想定しています。

〔草地型〕は樹園地においても適用するもので、家畜ふん尿は全量を草地又は樹園地に還元して、環境汚染と草地等の生産力の増強をはかり、〔畑地型〕においてはふん尿を、地域の作目構成に応じた処理方法で畑地に還元し、地力の向上をはかり、〔水田型〕においては、ふん尿の土地還元の困難を想定して適切な処理をはかることを前提とした計画をすすめ、環境保全してやっけて行うとする、畜産集落群の育成に助成する考えを明らかにしています。

この事業関係の助成(口)は、実施対象農家の調査や計画策定・運営技術指導等の費用として $\frac{1}{2}$ 額(定額)を、又附帯事務費として、事業費の0.25%を実施主体に交付する試算もしています。

総事業費として1町村(一集落群)50,000千円程度を見込み、2年度事業として国庫補助は $\frac{1}{3}$ としています。

事業の主体は市町村・農協等となっており、補助金は県を経由して事業主体に交付されます。

畜産環境保全関係の助成事業は、技術開発関係として高能率養豚施設があり、技術展示的なものとして汚水処理施設や悪臭防止対策の事業をまとめ、そして拡充する方向に転換することが明らかになりました。

この外更に環境整備事業があり、従来の畜産団地造成事業と、昭和48年度から始められた畜産経営環境整備事業が実施されておりますが、このうち畜産団地は団体営の環境整備事業に、今年度から始められた事業は、県営の環境整備事業と云ふように、区別して進めて参ります。

以上のように保全関係の事業は、同じような名前が出て来てまちがいがしやすいようですが、集落群、団体営又は県営の環境整備と大きく分けて進めて行くようになります。

〔2〕家畜ふん尿共同処理施設設置事業(県単)

＝部落ぐるみ畜産公害防止対策＝

県単独の事業として新しく、中小規模の集団を対象

とする中型の事業を実施すべく、計画を進めております。

これらは養豚養鶏に限らず、大規模な国庫補助の採択基準の及ばないグループを対象としようとするものです。

補助の条件としては、部落内に畜産農家が多く、緊急に汚染防止の対策を必要とする地域において、この事業に参加する農家が5戸以上であって、ふん尿処理施設を共同利用するものであること。

対象頭数は肥育豚おうむね500頭以上、養鶏にあっては常時飼養羽数2万羽以上を対象とする施設であること、又既設の施設に補完することによって、処理効果が高まると認められる施設に対しても、助成したいものと考えています。

例えば汚水処理タイプの事業においては、バキュームカー、尿貯溜槽、尿ポンプ、格納庫等の設置、又悪臭防止タイプの事業では、火力乾燥機、ダンプカー、乾燥機、保護舎等を、又ふん尿処理タイプとしては、ダンプカー、堆肥盤、トラクター、トレンチャー、フロントローダー等農用器具の設置に助成しようとする計画であります。

又既にふん尿処理施設として設置したものであっても、補完処理タイプを準備して、前処理用に固液分離機械や砂濾床と云ったものや、汚水の送水配管等の施設をすることによって、更に効果が発揮出来る見込のあるものに対しても、補完する計画であります。

事業主体としては、農業協同組合、農業生産法人、営農集団を予定しております。

ともあれ、畜産による環境汚染防止のための整備事業は、関係畜産農家はもとより、地域の市町村、農協などが積極的に、地域の畜産振興と同時に調和のとれる部落作りを、真剣に取り上げ取り組む所から、事業の規模を大きく取り上げ、ふん尿処理を中心に畜舎、営農機械等地域に応じた一連の助成を行なおうとする大きな事業が計画されておりますので、それぞれ研究されますようにおすすめて、お知らせした次第です。

(詳細は家畜保健所まで)

(畜産環境整備係)

和牛子牛の 価格が高騰!

宮城県畜産農協連

昨年秋以来、和牛子牛の価格が高騰し続け、本年11月の県内子牛市場をみると、雌雄平均が85万円近くになりました。(別表参照)

生産者並びに関係者にとって誠に結構なことと存じます。しかも本年の7月以来。どこの市場も、雄牛(去勢牛)よりも、雌子牛の方が高くなりました。これは和牛の繁殖をしてゆこうという農家が増えたことと、肥育素牛の枯渇に依る和牛生産振対策等に依る諸施策、並びに指導の証左で、いずれは、和牛の増殖にもつながること、誠に喜ばしい次第であります。

和牛子牛の価格について、県内市場の価格推移をみると、4年を周期にして上がり下がりがありましたが今回の牛価の高騰は全く急上昇で11月中旬までは日毎に高騰を続け、以後下向きの気配をみせて来ました。この原因について、種々考えられますが、何よりも牛肉の消費増の影響が最大と思われます。牛肉の値段がかなり高いのに消費が伸びている、しかも、かなり上等の肉が消費されており、その伸び率は従前の数倍にも達しようと言われている。

又、日本の牛肉の自給率は80パーセント以上に農林省が認めたり、牛肉の自由化問題も、そう心配するほどのことでないことが判ってきたり、又、牛肉は世界的にみても不足し、大量の輸入などできるものでないことが判明したりして、和牛をふやそうというような気運があり、それに、この子牛の高値で、いよいよ和牛熱があらわれて雌子牛の高騰となったものと考えられます。つきまし

て県内で11月中に開設された主な子牛市場の成績を別表にて報告いたします。
(業務課)

第一表 昭和48年11月宮城県内子牛市場成績表

市場名	開設日	性別	取引頭数	価格			備考
				最高	最低	平均	
宮崎	1日	牝	42頭	442,000円	186,000円	356,167円	
		牡	40	377,000	221,000	313,313	
		計	82	442,000	186,000	322,082	
小野田	2	牝	32	425,000	280,500	350,468	
		牡	53	362,000	240,000	305,132	
		計	85	425,000	240,000	322,082	
川渡	4	牝	80	485,000	272,500	366,190	
		牡	98	426,000	241,500	330,270	
		計	178	485,000	241,500	346,414	
鹿島台	7	牝	19	453,000	240,000	346,210	
		牡	33	405,000	190,500	313,227	
		計	52	453,000	190,500	325,278	
小牛田	10	牝	85	580,000	243,000	391,966	
		牡	125	453,500	127,000	308,852	
		計	210	580,000	127,000	342,196	
佐沼	14	牝	48	890,500	283,000	409,479	
		牡	83	466,000	205,000	295,989	
		計	131	890,500	205,000	339,832	
築館	16	牝	95	703,000	228,000	390,589	
		牡	88	391,000	226,000	293,965	
		計	183	703,000	226,000	344,125	
亘理	16	牝	17	382,000	272,000	323,000	
		牡	12	345,000	256,500	285,000	
		計	29	382,000	256,500	307,500	
白石	17	牝	8	381,000	200,000	303,625	
		牡	7	290,000	200,000	243,928	
		計	15	381,000	200,000	275,766	
合計		牝	426	890,500	186,000	375,693	
		牡	539	466,000	127,000	307,627	
		計	965	890,500	127,000	337,675	



△乳牛用飼料なら

明治乳牛用完全配合飼料

△仔牛の育成には

メイラック・人工乳N

明治飼糧株式会社

東京都千代田区神田小川町2の12
小川町進興ビル新館

岩島のタマゴ

強い岩雞を大自然の中で育てる岩島グループ

宮城県金成町字畑大梨
TEL022842(279)

岩島養鶏場

附 表

宮城県に於ける最近の子牛市場成績

築館子牛市場（9月16日開設）

性	出場頭数	平均価格	最 高	最 低	平均月令	平均体重
牝	58	309,448	363,000	181,000	6ヶ月 4日	187kg
牡	59	301,059	350,000	235,000	7ヶ月 1日	218kg
計	117	305,217	363,000	181,000		203

佐沼子牛市場（9月14日開設）

牝	66	303,234	393,000	200,000	6ヶ月 27日	211
牡	61	290,259	378,000	162,000	6ヶ月 21日	222
計	127	297,000	393,000	162,000		216

小田子牛市場（7月10日開設）

牝	88	277,363	375,500	197,000	8ヶ月 1日	211
牡	94	276,654	390,500	106,000	7ヶ月 25日	241
計	182	276,997	390,500	106,000		227

川渡子牛市場（7月4日開設）

牝	40	243,529	316,000	195,000	6ヶ月	175
牡	44	255,989	341,500	190,000	6ヶ月	207
計	84	250,054	341,500	190,000		192

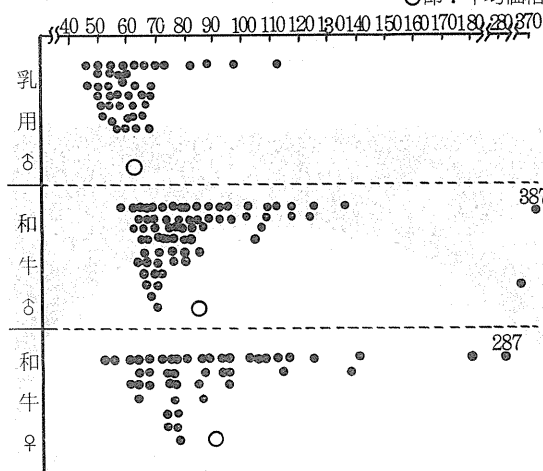
畜産経営環境整備施設機械展示会開く

本会では47年に引続き畜産経営環境整備施設機械展示実演会を10月23～24日の3日間、県畜産試験場を会場に19メーカーの協賛を得、畜産関係者、関心の高い畜産農家が多数参観し盛会に開催されました。

この展示実演会は、畜産の多頭化が著しく進むなかで

家畜ふん尿処理問題が畜産経営を大きく圧迫する要因となっており、各種の優良施設機械を展示実演して、ふん尿処理知識と利用技術等を理解し、機械施設の導入促進を図りふん尿処理問題を早急に解決し、今後の畜産経営の安定化を期そうとして開かれました。

図1. 枝肉販売価格（万円） ○印：平均価格



畜産相談室のお知らせ

「畜産みやぎ」では1月発行より畜産全般に関する質問、相談等をお寄せ頂き、それに対して専門の先生方より紙上で解説して頂くとするもので、読者の方々のご利用をお願いします。

ご質問は官製はがきに質問の要旨、住所、氏名、職業電話番号を明記して下記に送って下さい。

（なお紙面の都合で全部の質問を掲載されない場合があります。）

〒980 仙台市上杉一丁目2～16

農協会館内 宮城県畜産会